

新居浜弁 **最高!?** 再考

「一寸法師」を新居浜弁で語ってみると…

だれぱり 住んどらんような 山の中に 老夫婦が おったんよ。
誰も住んでいないような山の中に、老夫婦が 暮らしていました。

おじいはんは 畑仕事も やりくさしにせんと がんばりよるし、
おじいさんは畑仕事も投げ出さずに頑張っていましたし、

おばあはんも いそしいに 働きよる ええ夫婦じゃったわい。
おばあさんもよく動いて働く、とてもいい夫婦でした。

ほやけど ふたぁりには 子どもが おらんけん
しかし、二人には子どもがいないので

毎日 神様に おねがい しょったんよ。
毎日神様にお願いをしていました。

「神様 **こまい**子おで かまんけん、子どもを さずけてください」
「神様、小さな子でかまいません。子どもを授けてください」

ほしたら 本当に 子どもが できたけん ふたぁりとも たまげたがね。
すると、本当に子どもができたので、二人ともびっくりしました。

親指くらいの よいよー こまい 子どもじゃったけど、
親指ほどの(大きさの)とても小さな子どもでしたが、

「一寸法師」と名前つけて どこぱり ないくらいに 可愛がったんよ。
「一寸法師」と名前を付けて、他にはないくらいに可愛がっていました。

一寸法師は こまいけど おせらしい 子おじゃ。
一寸法師は、体は小さいけど、とても大人びた(良く出来た)子どもでした。

きよろさい みたいなこと ないけん。
落ち着いたの無い子どものような行動はしません。

何年かして ある日 一寸法師は おじいはん、おばあはんに 言うたんよ。
何年かたったある日、一寸法師はおじいさん、おばあさんに言いました。

「都で 働きたいんじゃけど かまんかろか？」
「都で働きたいと考えています。かまいませんか？」

こまいけど えー 若いしになった 一寸法師に おじいはん、おばあはんは
小さいけれど、立派な若者になった一寸法師におじいさん、おばあさんは

「ほりゃ ええがね。いっといでん。**がんばらんかいよ**」と、賛成したわね。
「それはいいことだ。ぜひ行きなさい。頑張りなさい」と、賛成しました。

西条弁は1月にやったけど、「新居浜弁」を徐々にやろわい。リクエストも多いんよ。読者のみなさん、ありがとう。最近引っ越してきた人はこれ読んで新居浜弁覚えてんよ。西条の人もたいがい解るとは思うけん、まあ読んでみてん。

おじいはんは 針で刀を **がいよう**に 作ってあげて、
おじいさんは、針で刀をとても上手に(器用に)作ってあげて、

おばあはんも「お椀を 船にして **下**に降りんかい」と、
おばあさんも「お椀を船にして、都まで(川を)下りなさい」と、

送り出して あげたわね。
送り出してあげました。

「いってこーわい!!」
「いってきます!!」

お椀の船におかしこまりして 都まで来た 一寸法師。
お椀の船の中で 正座をして(乗って)都に到着した一寸法師。

べらでかい屋敷を 見つけて「よっしゃ、ここじゃ」と すぐに決めたけん。
とても大きい屋敷を見つけて「よし、ここにしよう」と、すぐに決断しました。

「おはようございましたっ!」と、
「おはようございませっ!」と、

おんかれるの 覚悟で 屋敷の前で おらんだんよ。
怒られるのを覚悟で、屋敷の前で大きな声で叫びました。

出てきた屋敷の 手伝いの人は 一寸法師を よお 見つけんけん、
出てきた屋敷のお手伝いさんは、(小さな)一寸法師を見つける事ができないので、

「おかしいのぉ どこ おるんでや?」と、探しよったら、
「おかしいなあ、どこにもいないぞ?」と、探していたら、

「下 見てんや ここにおろ!」
「下を見てください。ここにいるでしょ」

玄関先の こまい 男の子 見つけて 手伝いの人も たまげとらい。
玄関先にいる小さな男の子を見つけたお手伝いさんは、びっくりしています。

「また こまい子お じゃねえ。ほーじゃ **うちんく** くるで?」
「とても小さな子ですね。それでは、私のところにきますか?」

と、一寸法師を 屋敷のお嬢様が えらい気に入って、
と、一寸法師のことを、屋敷のお嬢様がやたらと気に入り、

お嬢様の遊び相手で 屋敷におる事になったけん、
お嬢様の遊び相手として、お屋敷に居る事になったので、

一寸法師も おじたりせんと お屋敷訪ねて よいよ よかったわね。
一寸法師もビクビクせず屋敷を訪ねて、とても良い結果となりました。



ある日、一寸法師は お嬢様と お宮参りに 行ったんよ。
ある日、一寸法師はお嬢様とお宮参りに行きました。

ほしたら いきしなに どーで 強そうな 鬼が 出てきたけん
すると行っている途中で、とても強そうな鬼が出てきたので

お嬢様は たまげて あずって、半泣きじゃけん。
お嬢様は びっくりして、困り果て、半分泣きそうな気分です。

「こりゃ べっぴんさん じゃ。連れて もんて **つれ**と **ひろきまわっ**ちゃろ」
「これは美しい娘だ。連れて帰って仲間(の鬼)と、(宴会などして)騒いでやろう」

鬼は お嬢様に **まがりまわ**って きざかいして
鬼はお嬢様に触り回って、いやがらせをして、

ほんで 腕 ひっぱって いきよったんよ。 三銭 じゃ。
最後には 腕を引っ張って連れて行こうとしました。 本当にとんでもない奴(鬼)ですね。

「おどれや!! 何しよんぞっ!!」
「お前!! 何をしているんだ!!」

おじたりせん 一寸法師は あらくたい 鬼に むかって ゆうたわい。
恐怖心の無い一寸法師は、乱暴な鬼に向かって言いました。

「こまいんが おるげや。足で **しゃいじゃ**ろか? いや 食うちゃろかあ」
「小さいのがいるなあ。足で踏みつぶしてやろうか? それとも 食べてやろうか?」

鬼は笑いもて 一寸法師を つまんで 一口で 食うてしもた。
鬼は笑いながら一寸法師をつまんで、一口で食べてしまいました。

「こまいけん 歯ぁにも **はさから**ん かったげや」
「小さすぎて、歯にも引っかからなかったぞ」

鬼はまた 笑いもて お嬢様の 手え 引っ張って 行きよったわい。
鬼はまた笑いながら、お嬢様の手を引っ張って行こうとしました。

ほやけど 一寸法師は がいなけん、鬼の腹ん中で 針の刀 振り回して、
しかし、一寸法師は強い。鬼のおなかの中で針の刀を振り回して、

傷いった ところから 鬼の胃袋を内側から **へい**でいったら、
傷ついた箇所から、鬼の胃袋を内側から剥がしていったら、

見よる間に 血いが こんこん でてきて またそこを 蹴つりやげたった。
そのうち血がどんどん出てきて、さらにその箇所を蹴っとはしました。

鬼は その場に うすくまって なにぱり できんようになってしもた。
鬼はその場にうすくまって、何も出来なくなりました(動けなくなりました)

「いたいげや! なんしよんでや!」
「痛い!! 何をするんだ!!」

最後の方で 声あらげて 言うたら 勢いで **げえあげて**してもて、

最後の方で 声を大にして言ったら、その勢いで 嘔吐してしまい、

一緒に 腹ん中から 一寸法師も 飛び出して きよったわい。

一緒におなかの中から、一寸法師も飛び出してきました。

「なにばり しょったら この 一寸法師が ゆるさへんぞ」

「悪い事ばかりしていたら、この一寸法師が ゆるさないぞ」

鬼は「いらんことしてしもた。もー じゃらじゃら せんけん…」

鬼は「とんでもない事をしてしまった。二度とこんな(非合法的な)まねはしませんから」

言うて 見よる間に 泣きもて 逃げていったわね。

と言いながら、あれよあれよの間に、泣きながら逃げていきました。

鬼は 逃げたけど 馬鹿じゃけん 大事なもん 落としていっとらい。

鬼は逃げてしまったけど、大事なものを落としていってます。(鬼は慌てていたので気がついていません)

それを 拾た お嬢様が

それを拾ったお嬢様が

「これは 打ち出の小槌 じゃねえ。

「これは打ち出の小槌ですね。

振ったら 何でも ゆうこと 聞いてくれるんよ」

(これを) 振ると 何でも願い事が叶うんですよ」

一寸法師は

一寸法師は

「お嬢様 お願いじゃけん、これで 背えを 大きいにしてや」

「お嬢様 お願いします。これで 身長を伸ばしてくれませんか？」

お嬢様が

お嬢様が

「一寸法師、大きなれえ」 言うて、 打ち出の小槌を 振り上げたら

「一寸法師、大きくなーれ」 と言いながら、打ち出の小槌を振り上げたら

見よる間に どんどん 一寸法師は 大きなたけん たまげらい。

瞬く間に どんどん 一寸法師が大きくなり、びっくりです。

大きなた 一寸法師は

大きなた 一寸法師は

お嬢様と 結婚して 幸せに 暮らした いよったわい。

お嬢様と結婚して、幸せに暮らしたそうです。

やるねや、一寸法師。

なかなか 抜け目ないですね、一寸法師は。

ほうよ、そのことよ…。

そうそう、私もそう思います。

【本文内 **赤文字** の解説】

こまい	小さい。【こんまい】とも発音する。西日本の広くで使われている方言。
きよろさい	落ち着きのない人。また、大勢の前で調子に乗って騒いだりする子ども。それが原因で軽いケガなんかしたら「きよろさいじゃ」と、即称号を与えられる。ただし入院するほどのケガだったりすると、退院してから笑い話的に言われたりする。
がいように	がいよう - に「上手に」「器用に」の意味。「丈夫に」の場合に使う事もあり。【がいよに】と発音することも。
下 (しも)	新居浜で上部など南方面から、川西地区等、海に近い北方面を指す場合、下(しも)と呼ぶ。川下(かわしも)が語源?
うちんく	私の家、の意味。徳島などでも使われているそう。
つれ	友達や仲間内のこと。男性が「男友達」を指す場合に使う。女性が「女友達」を指す場合に使う事は、まず無い。
ひろきまわっちゃろ	ひろき回る＝騒ぎ回る。ひろく＝騒ぐ。神妙な席・場所等で、騒ぐ子どもに大人が注意する時、よく使われた言葉。「ひろかんと、座っとき!!」
まがりまわって	まがる = 触る、触れる。 まがりまわる = 触りまくる。まがるな = 触るな。
しゃいじゃろ	しゃぐ + じゃろ (～してやろう)。しゃぐ = 潰す、ぺちゃんこにする、の意味。使用例「車で空き缶をしゃいだ」
はさからん	はさかる。隙間にものが引っかかること。口の中の場合 爪楊枝で取れる程度のカス的なものが、歯の間に引っかかる。使用例「肉が歯あにはさかった」
へいで	へぐ。平面にくっついている、やはり平面的なものを剥がす場合に使用。使用例「壁の古いクロスをへいでください」
げえあげて	嘔吐すること。 げえ = 嘔吐物。
そのことよ。	「その通り」の意。意見や話題を述べた【A】に対し、考えが一致する、また自分もそう思っている【B】が返す言葉。本文中では語り手の「(異性に対して)抜け目のない一寸法師」という部分に、どこからともなく出てきた第三者が、「私もそうだと思う」的に使っています。

※ストーリーは編集部で一部脚色しております。

ニュアンスや発音等は、地域、性別、年代などで異なります。また地域、性別、年代などで使う言葉、使わない言葉もございます。ひとくくりに「新居浜弁」とするのはおこがましいのですがご了承ください。

過去に掲載のバックナンバーは編集部にお越し頂ければ、無料でお渡しできます。また、過去掲載分のPDF版をダウンロードできます。 <http://www.hoo-ja.com/>